

前年度評価結果の概要	<p>○学力向上については、高い数値目標を掲げているが、あきらめず、達成に近づけるように教職員全員で取り組んでいく。3年生は、高校入試成績とセンター試験の結果から、特に中・上位において成績を伸ばしている。また、センター試験後の難関大学出願者数は、近年最多である。この成果を次年度以降につなげていく。</p> <p>○生活指導は、生徒の自己評価にかかわらず、清掃・挨拶については、さらに改善の余地がある。また、自転車マナーは、事故が依然起こっており、道路交通法改正以降、さらなる課題となっている。携帯電話等の情報モラルは、講演会や日常の指導を通して、粘り強く取り組んでいく。部活動は、運動部・文化部とも、概ね活性化されており、学習との両立もできつつある。</p> <p>○本校への志願者確保は、中高連絡会や毎月の中学校訪問などで、効果があった。上位層の大分市内への流出を防ぐために、学校としての成果を上げるとともに、さらなる広報が必要。PTAの出席率は、総会の数値目標は達成できたが、学年保護者会が今後の課題。日程の検討とともに、保護者への周知をもっと早くできるようにする。学校HPは、平日毎日更新を継続中、様々な情報を伝えることができた。保護者の認知も高まってきている。</p>
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
学力と人間性を兼ね備えたタフな鶴高生を育成する。	<p>○授業力を向上するとともに自らの学習の計画・見直しができる生徒を育成することにより、学校が掲げる大学数値目標の達成を図る。</p> <p>○規範意識・人権意識を高揚するとともに、部活動・生徒会を一層活性化させる。</p> <p>○家庭・地域等に積極的に情報発信することにより、大学(特に難関大学)進学を希望する本校志願者を確保する。</p>	<p>○学力向上・進路達成に向けた学習指導及び進路指導体制の充実</p> <p>○生活指導の徹底、人権教育・道徳教育の充実及び生徒会活動・部活動のさらなる活性化</p> <p>○地域に開かれた学校づくりの推進</p>

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL/SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
					評価	分析・考察		
学力向上・進路達成に向けた学習指導及び進路指導体制の充実	<p>○平日の家庭学習時間のクラス平均は3時間以上(及び2時間以下の生徒をなくす)。</p> <p>○学習到達ゾーンで、全員B3以上を目指す。</p> <p>○難関大学20名以上。</p> <p>※対外模試等で全県順位の10%を目指す(全県20番、200番、1500番)</p>	<p>○授業力を向上させるとともに、「生徒がわかる授業」「伸ばす指導」「見逃さない指導」を徹底する。</p>	<p>○互見授業期間を年2回設定する。</p> <p>○生徒による授業評価を年2回実施</p> <p>○大学入試総括会議(4月)、教科指導作戦会議(5月)を実施し、各学年・教科で取組を徹底する。</p> <p>○県内外の優秀な教員の授業を参観し、職員研修で還元する。</p>	<p>PL:教務主任</p> <p>SL:教科主任</p>	3	<p>○11月進研模試の学習到達ゾーンでは、1年生は90.3%、2年生は86.4%がB3以上であった。</p> <p>○互見授業を前期1回、後期1回の計2回実施した。</p> <p>○生徒による授業アンケートを前期1回、後期1回の計2回実施した。</p> <p>○大学入試総括会議(4月)、教科指導作戦会議(5月)を実施した。</p> <p>○県外の先進校視察を9月・10月に実施。還流報告を12月に行った。</p> <p>○計画していた取り組みは予定通り実施できた。1・2年生の学習到達度の改善が必要である。3年生は大学受験に向けて二次試験対策に力を入れている。入試結果で取り組みの成果を検証したい。</p>	<p>○来年度の入試分析検討会で、本年度の取り組みの総括を行う。その検証の中で、良かった点や反省点が明らかになるので、それを新年度の取り組みに反映する。</p> <p>○校内の授業力向上体制を再構成する。来年度は授業評価に加えて、研究授業を授業力向上に生かせるよう改善する。</p>	<p>○大学入試制度の改革に伴う教育課程の変更などすばやい対応を考えてほしい。</p>
		<p>○自立した学習者を育成するための指導の充実を図る。</p>	<p>○生徒の学習意欲喚起につながる進路行事を企画する。</p> <p>1年生:合格者登校日・学習オリエンテーション、集団宿泊研修、担任による面接指導(年4回以上)、教科面接(年1回以上)</p> <p>2・3年:各教科で学習オリエンテーションを年度当初実施、教科面接を必要に応じて実施</p> <p>○AT範囲の早期提示を行う。</p> <p>○手帳を活用し生徒自らが学習の計画・見直しを行う力を育成する。(PDCAサイクルの確立)</p> <p>○進路シラバスを活用し、3年間の学習の流れを理解させるとともに、学習習慣の確立を図る。</p>	<p>PL:教務主任</p> <p>SL:進路指導主任</p> <p>教科主任</p> <p>学年主任</p>	2	<p>○12月AT前の平日の学習時間平均で、1・2年生は3時間に届かず、3年のみが3時間を越えている。2時間未満の生徒は全体の約30%である。</p> <p>○生徒の学習意欲喚起につながる進路行事を行った。</p> <p>1年生:合格者登校日・学習オリエンテーション、集団宿泊研修、担任による面接指導(年4回以上)、教科面接(年1回以上)</p> <p>2・3年:各教科で学習オリエンテーションを年度当初実施、教科面接を必要に応じて実施</p> <p>○AT範囲はほぼ10日前(土日を含む)に生徒へ連絡した。</p> <p>○手帳を活用し、生徒が計画的に学習に取り組むよう指導を行った。</p> <p>○進路シラバスを手帳に貼り、定期的に内容を確認するように指示を行った。</p>	<p>○授業シラバスを改善し、生徒の単元における学習目標を明確にして、授業での学習効果を向上させる。</p> <p>○年度当初のオリエンテーションだけでなく、担任による面接や教科担任による面接の機会を増やし、生徒の学習意欲を高める工夫をする。</p> <p>○手帳の利用についてのアンケート結果から必要な改善点を検証して、新年度の取り組みに生かす。</p>	<p>○学習時間の減少については、スマホ等の要因を含み、対策を講じてほしい。</p>
	<p>○キャリア教育の視点から総合的な学習の時間の充実を図る。</p>	<p>○生徒の進路選択を支援するための行事を充実する。</p> <p>1年生:職業人講話(7月)、1日大学体験入学(8月)</p> <p>2年生:志望大学のオープンキャンパス参加(8月)</p> <p>1・2・3年:進路講演会(学年単位1回以上)</p> <p>1・2年生:卒業生等による合格体験談(3月)</p> <p>○キャリア教育の先進校視察を行い、職員研修で還元する。</p>	<p>PL:進路指導主任</p> <p>SL:教務主任</p> <p>学年主任</p>	3	<p>○1年生の職業人講話は多種類の中から選択できるようにしたため、幅広く学ぶことができ、有意義な場となった。</p> <p>○2年生8月のオープンキャンパスは九大・熊大をはじめ志望校に参加し、モチベーションアップにつながる場となった。</p> <p>○進路講演会については各学年1回以上実施できている。</p> <p>○昨年度3月に実施した卒業生による合格体験談は初めての試みだったが、卒業生の生の声は在校生の胸に響いたのではないと思う。今年度も3月18日に予定している。</p> <p>○キャリア教育先進校視察については、今年度2名の先生に9月に行ってもらい、その後環流報告まで実施できた。昨年度の課題は解消できた。</p>	<p>○総合的な学習の係は今まで明確な分掌の位置づけがなかったが、来年度は進路が担当になる予定なので、イニシアティブをとっていく。</p> <p>○2、3年生の進路講演会として系やコース別に実施する。</p>	<p>○卒業生による合格体験談の試みは効果的である。さらに改善をお願いしたい。</p>	
	<p>○難関大学希望クラスの指導の充実を図る。</p>	<p>○難関大学希望クラス用シラバスにより授業を実施する。</p> <p>○難関大学希望クラス指導対策会議(年3回実施)等により、計画的・組織的な取組を強化する。</p> <p>○大学入試総括会議、大学入試問題研究・報告会を実施し、その成果を各授業担当者が徹底して実践する。</p> <p>○教科会議等でAT問題の検討を実施し、思考力・判断力・表現力を問う良問を出題する。</p>	<p>PL:進路指導主任</p> <p>SL:教務主任</p> <p>教科主任</p> <p>学年主任</p>	3	<p>○難関大学希望クラス指導対策会議は現在までに2回実施済み。より縦のつながりを強化する必要性を感じている。</p> <p>○大学入試総括会議や教科指導作戦会議の効果については、今回の進路結果で判断したい。</p> <p>○ATの問題検討については、英・数・国については事前と事後の2回実施してもらった。特に事後の検討は昨年まではなかったが、大きな意味をもつと考えている。</p> <p>○昨年度改善策として挙げた中で、「互見授業の中で少なくとも1回は難関大希望クラスの授業を見学する」については、全員の実施は難しく実行できなかった。</p>	<p>○大学入試総括会議の中での協議内容を焦点を絞った形にして、意見が出やすいようにする。</p> <p>○入試問題研究については春先だけでなく、1年を通じて継続的に教科会議で行ってもらおう。</p> <p>○教科会議の中でAT問題の事後検討会を更に充実させたものにする。</p>	<p>○よく取り組んでいいる。さらに徹底をお願いしたい。</p>	

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL/SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価	
					評価	分析・考察			
生活指導の徹底、人権教育・道徳教育の充実及び生徒会活動・部活動のさらなる活性化	○身だしなみ、挨拶、清掃、自転車、携帯電話についての自己評価が3.3以上。 ○心身の安定、人権についての自己評価が3.3以上。 ○部活動入部率75%以上、部活動満足度80%以上。	○日常の指導及び学校行事をとおして規範意識の確立を図る。	○合格者登校日、集団宿泊研修等の行事で新入生の生活指導を徹底する。 ○規範意識の高揚のためハイスクールマナーセミナーを年2回実施する。 ○頭髪服装検査・携帯マナー指導を毎月実施する。 ○関係機関と連携した指導・講演会等により、自転車マナー・バス乗車マナーを向上する。 ○登校指導を毎月実施する(PTAと連携した登校指導は年3回実施。) ○生徒会と協力した環境美化活動及びあいさつ運動を毎月実施する。	PL:生徒指導主任 SL:学年主任 特別活動主任	2	○新入生に対する生活指導はオリエンテーションや各種行事を通じて指導することが出来た。指導主任が講話することにより基準が徹底できた。 ○マナーセミナーの実施は出来なかったが、教職員には年度当初に「鶴高生のマナー」について共通理解を得たことにより、指導が徹底できた。 ○頭髪服装検査及び携帯電話の所持の指導については毎月実施出来た。服装違反や携帯の校内使用が減った。 ○自転車マナー・バス乗車マナーについては集会や注意点の掲示などで喚起をおこなった。 ○登校指導(指導部含む)は毎月実施出来た。PTAや別府警察署員、学年部も参加することで、連携が図れた。 ○生徒会による環境美化活動及びあいさつ運動は若干低調であったが、文化祭での発表は新たな試みであった。 ○自己評価は、身だしなみ(3.5)、挨拶(3.1)、清掃(3.1)、自転車(3.5)、携帯電話(3.5)、挨拶と清掃が課題である。	○新入生に対しては早い段階での指導が必要である。また、担任についても基準の共通理解が必要である。 ○マナーセミナーの実施についてはポイントを絞って講師を招聘する。(毎年同じ内容では意味が無い)更に年度の早い段階で実施する。 ○頭髪服装検査の時間を短縮する。日々の指導があれば検査の回数も減らすことが出来ると思われる。 ○自転車マナー・バス等乗車マナーセミナーの実施についてはポイントを絞って講師を招聘する。(毎年同じ内容では意味が無い)更に年度の早い段階で実施する。 ○登校指導は引き続き、警察の参加を要請することが良い。PTAは実施内容や注意点を広報誌などに掲載するようお願いする。 ○教員の仕掛けが必要である。	○鶴高生の身だしなみは他校と比べて整っている。この伝統を引き継いでほしい。 ○自己評価の数値を達成指標としているが、客観的な評価ができていないと感じるので、工夫をお願いしたい。	
		○やさしさ・たくましさ・粘り強さを育てる指導を強化する。	○日常の会話や面談、実態調査などにより生徒の状況を把握する。 ○授業担当者会議(年2回実施)等を実施し、生徒一人一人を大切にすための組織的支援体制を強化する。 ○健康・安全に関する意識を高めるために「ほけんだより」の年6回以上発行及び環境整備を行う。 ○人権意識を高めるための講演会を実施する。 ○特別支援教育に関する職員研修を充実する。 ○鶴嶺祭、体育大会、鍛錬遠足などの行事の充実を図るとともに、各行事では「仲間づくり」に留意し、望ましい集団の形成を図る。	PL:保健・教育相談・特別支援教育主任 SL:人権教育主任 特別活動主任		3	○自己評価は、心身の安定(心3.0、身3.1)、人権(3.3)。 ○担任会に養護教諭が参加して会議毎に生徒の情報交換を行い、ほぼ生徒の健康状態等の把握ができていた。 ○人権意識、健全な生活を高めるために9月に全校生徒対象に講演会を行った。 ○特別支援教育に関する生徒アンケートを1年生対象に行った。 ○「起立性調節障害」について、外部講師を招き職員研修会を7月に実施した。 ○学校行事において、生徒の心身の体調などに気を配り、仲間作りの機会として活用することがほぼできた。 ○「保健だより」を月1回発行、インフルエンザ流行にともない臨時号の発行するなど健康に関する活動をした。	○心身ともに健康に学生生活が送れるよう日常において健康観察や生徒自身の健康管理能力の育成に努める。 ○学校行事を通して、望ましい集団の形成を図るとともに、人間関係が豊かで、他者の人格を大切にできる生徒の育成に努める。 ○特別支援教育や教育相談支援についての研修会を年度の早い時期(今年度と同様7月)に実施し、職員研修を充実させる。	○自己評価の数値を達成指標としているが、客観的な評価ができていないと感じるので、工夫をお願いしたい。
		○生徒会活動・部活動の時間の確保と短時間集中型練習・活動を工夫する。	○部活動終了後、19:30完全下校を徹底する。 ○「部活動+α」活動を各部活動が月1回以上実施する。 ○部活動キャプテン集会を実施する。 ○生徒会・部活動インフォメーションボードを活用し、大会の予定や成績を環流する。	PL:特別活動主任 SL:学年主任		3	○部活動加入率は78%、部活動満足度は91%である。生徒名簿に部活動名を記載した一覧表を作成した。 ○19:30完全下校は定着しつつある。 ○「部活動+α」については、全体的には良好だが、部によって取り組みに差がある。 ○部活動キャプテン集会を4月・5月・6月・12月に実施した。 ○生徒会・部活動インフォメーションボードの活用状況は良好である。	○部活動加入率について大きな変化はなかったが、一覧表を活用して意欲のある生徒を見つけたなど、一人一人に対してきめ細かな呼びかけを担当をはじめ、学年や顧問が行う。 ○19:30完全下校をキャプテン集会や顧問会議において、定期的に呼びかける。 ○部活動キャプテン集会を今年度並みに実施する。 ○「部活動+α」については、年度当初から取り組み実態を整理しておく。	○運動部、文化部ともに成果が十分出ている。引き続き取り組みをお願いしたい。
地域に開かれた学校づくりの推進	○大学(特に難関大学)進学希望の中学生が多く入学を希望する高校としての存在感を確立する。 ○PTA総会の出席率80%以上、学年保護者会の出席率70%以上。 ○ホームページを毎日(学期中平日)更新する。	○中高連携を一層推進する。	○中高連絡会を年2回実施するとともに、内容の充実を図る。 ○中学生が希望する高校生活を送れる高校としてのPRの場として、オープンキャンパスを実施、内容も充実させる。 ○中学校訪問を毎月実施する。 ○「鶴高だより」(年10回発行)の配布を通して、別府市内外の中学校に積極的な情報発信を行う。 ○本校生徒と近隣中学校の生徒による生徒会活動を実施する。	PL:教務主任 SL:学校改革・進学力向上主任 特別活動主任 総務主任	3	○中・高連絡会第1回(7月2日)は18校(25名)参加、第2回(9月27日)は23校(33名)参加で増加した。また、第1回で出された要望を反映し、内容を充実させることができた。 ○オープンキャンパスを10月11日に実施した。(参加生徒429名、保護者60名前後)アンケートの結果では、参加者ほぼ全員が満足していた。 ○「鶴高だより」を第8号まで発行し、中学校訪問の際に中学生に配布している。 ○生徒会による中学生との交流活動(清掃活動等)の実施に向け、準備を行っている。	○第2回中高連絡会で出された要望を反映して、新年はさらに本校の教育活動を知ってもらえるよう内容を充実させる。 ○今年度のオープンキャンパスはたいへん好評であった。アンケートの結果を踏まえ、来年度はさらに良い行事にしたい。 ○中学校訪問や「鶴高だより」の配布を通じて、中学生への本校への興味や進学希望を喚起する。	○高校生が中学生に勉強を教えることは、非常によいと感じる。 ○学校再編により、中学生・保護者へのアピールがさらに必要になっている。	
		○家庭、PTA等との連携を強化する。	○保護者向けに学年通信を発行する。 ○各学年から保護者向けメールを発信し、様々な情報を提供する。 ○学年保護者会を充実させ、学校と家庭との協力体制を強化する。	PL:総務主任 SL:学年主任		3	○学校ホームページや学年通信を通して保護者の積極的な参加の呼びかけを行った。 ○PTA総会当日とPTA総会欠席者連絡会を併せて出席率は81.8%だった。 ○学年保護者会はこれまで2回(7月と10月)実施され、平均出席率は1年が64.1%、3年が74.9%、2年は1回目68.0%で2回目は2月に実施予定。	○PTAに関する連絡事項の周知徹底を図る上で、学校から発信するメールは効果的であり、今後も各種行事においても継続していきたい。 ○PTAに関する各種行事の参加においてはPTA役員の献身的な協力体制のおかげでもあるので、今後も連携強化に努めたい。	○PTAとの連携は十分とれている。今後も継続をお願いしたい。
		○家庭・地域への情報発信を推進する。	○分掌・学年の連携により、ホームページ制作の分業体制を確立する。 ○ホームページで学校の教育活動等についての様々な情報を発信し、コンテンツの充実を図る。	PL:情報・図書主任 SL:教頭		3	○各分掌や学年、管理職の連携により、学校行事の紹介やPTA行事の連絡などの情報を適宜公開して、定期的な更新を実施することができた。 ○保護者のホームページをよく見ている割合は、昨年度とほぼ同じ割合を維持している。	○ホームページ記事作成を各分掌や学年にお願いして、さらに分業化を進める。 ○ホームページの内容のさらなる充実を図る。 ○保護者のホームページへの認知度をさらに増加させる。	○学校のアピールに繋げるため、更なる充実をお願いしたい。
総合評価 次年度への展望等	○学力向上については、高い数値目標を掲げているが、最難関大学現役3名が合格し、特に中・上位において成績を伸ばしている。しかし、学習時間については、1、2年生の学習時間が昨年度より減少しており、来年度に向けて生徒の学習意欲を高める工夫を考えていく。 ○生活指導については、生徒の自己評価は高いが自転車事故が多発し、来年度の最重要課題と考えている。多欠席生徒の対応については、情報交換の工夫により、素早い対応ができるようになった。部活動は、体育部・文化部とも、概ね活性化されている。更なる学習との両立を目指していく。 ○本校への志願者確保は、中高連絡会や「鶴高だより」の配布などで、効果が上がった。上位層の大部分市内への流出を防ぐために、更なる広報が必要である。PTAに関する行事の参加など、PTAとの連携はとれているが、学年保護者会については、更に改善を考えていく。学校HPは、保護者の認知も高まってきているので、今後は更に内容の充実を図る。								